

施策評価（令和8年度）

基本政策1 防災減災・交通基盤			
目指す姿2 交流を支える交通基盤の強化			
幹事部局名	建設部	担当課名	建設政策課
評価者	建設部長	評価確定日	令和8年7月31日

2 施策の状況

2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性①】 高速道路の供用率(%)	目標			92	93	93	96	97.9%	3	
		実績	90	92	92	92	92	94			
	出典: 県調べ	達成率			100.0%	98.9%	98.9%	97.9%			
②	【施策の方向性①】 県管理道路の改築率(%)	目標			51.9	52.0	52.1	52.2	100.2%	4	
		実績	51.6	51.7	52.0	52.2	52.2	52.3			
	出典: 県調べ	達成率			100.2%	100.4%	100.2%	100.2%			
③	【施策の方向性②】 洋上風力発電における港湾の利用件数(累積)(件)	目標			2	4	6	6	116.7%	4	
		実績	0	2	2	4	7	7			
	出典: 県調べ	達成率			100.0%	100.0%	116.7%	116.7%			

※ 指標の判定基準

4点: 達成率 $\geq$ 100% 3点: 100% $>$ 達成率 $\geq$ 90% 2点: 90% $>$ 達成率 $\geq$ 80%
 1点: 80% $>$ 達成率 $\geq$ 70% 0点: 70% $>$ 達成率 n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式
3.67 (a相当)	4点 × 2個 = 8点 1点 × 0個 = 0点
	3点 × 1個 = 3点 0点 × 0個 = 0点
	2点 × 0個 = 0点
	合計 11点 ÷ 3個(判明済み指標) = 3.67

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

a相当: 平均点が3.6点以上 b相当: 平均点が3.2点以上3.6点未満 c相当: 平均点が2.8点以上3.2点未満
 d相当: 平均点が2.4点以上2.8点未満 e相当: 平均点が2.4点未満

2-3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① 高速道路等の整備】 - 高速道路整備促進大会の開催や、建設促進期成同盟会等の要望活動を通じ、日本海沿岸東北自動車道及び東北中央自動車道の事業中区間の早期完成を国に働きかけており、日本海沿岸東北自動車道の二ツ井今泉道路や、東北中央自動車道の真室川雄勝道路の工事等がおおむね順調に進捗している。また、日本海沿岸東北自動車道の遊佐象潟道路の一部区間が令和8年度に開通予定となっている。 - 国道101号（浜間口バイパス）や国道107号（本荘道路）等の幹線道路のほか、県道横手大森大内線（三本柳工区）等の高速ICへのアクセス道路の整備を推進した。また、国道105号の幸屋渡工区の一部区間において令和7年度に供用を開始したほか、秋田港と秋田自動車道秋田北ICを結ぶ「秋田港アクセス道路」の改良工や橋梁工の工事を実施している。 【施策の方向性② 港湾施設の整備】 - 洋上風力発電の拠点の形成に向けたふ頭用地の拡張整備（能代港10.4ha）は、令和7年12月に完成した。

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
a	成果指標の達成率を基にした定量的評価は3.67で「a相当」であることから、総合評価は「a」とする。
	【定性的評価として考慮した点】 .

4 県民意識調査の結果

参考:2026(R8)年度県民意識調査の結果

質問文	社会経済活動を支える道路等のインフラの整備が進んでいる					
満足度	調査年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	5点				2.0%	
	4点				12.3%	
	3点				37.3%	
	2点				24.7%	
	1点				15.9%	
	わからない・無回答				7.8%	
	平均点				2.57	
質問文	インフラの老朽化への対応などインフラの適切な維持管理が進められている					
満足度	調査年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	5点				0.9%	
	4点				6.6%	
	3点				30.1%	
	2点				31.9%	
	1点				17.7%	
	わからない・無回答				12.8%	
	平均点				2.33	

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

※2025(R7)年度以前は同様の質問を実施していないため、結果は記載していない。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	○ 高速道路は、防災・減災、国土強靱化に資するとともに、地域経済の活性化に大きく寄与することから、早期にネットワークを完成させる必要があるが、いまだ未整備区間や暫定2車線区間が残っている。	○ 高速道路の沿線市町村等との連携を強化し、未整備区間の早期解消や暫定2車線区間の4車線化について、国や関係機関に対して要望していく。また、令和8年度は県内1区間が開通予定となっており、供用率の向上が見込まれる。
②	○ 洋上風力発電事業等の建設やメンテナンス等の需要の高まりに対応し、環日本海交流の拠点となる上で、港湾機能が不十分となっている。	○ 基地港湾に指定された秋田港及び能代港の機能を最大限に発揮し、今後事業展開される秋田沖等の洋上風力発電事業においても港湾群として対応するため、秋田港の整備を進めるとともに、港湾計画改訂に基づく船川港の整備を推進する。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「a」をもって妥当とする。
